

## がんばれ、DB！

関西大学 社会安全研究センター 小澤 守

昨年の暮れも押し迫った12月24日から正月の2日にかけてドイツ・ミュンヘンに家族と出かけた。この寒い時期になんでというのは、航空運賃が手ごろであったからである。とはいえ現地へ赴けば1ユーロ180円にもなろうかという円安で、焼いたソーセージをパンにはさんだだけのスナックが5～7ユーロ、為替換算すると900円から1000円を超すという状況で、家族には為替を考えずに、1ユーロ100円と思えと言いつつ、結果的に最も安いブレッツェルばかり食べるという小旅行をしてきた。

かつて筆者も現役のころには、業務で何度も海外に出かける企業の人たちとは違うが、それでも年に2回程度国際会議出席のため海外に出かけていた。しかし、自費でしかも観光旅行というのは今回が初めてで、ミュンヘンで入国管理官に目的を聞かれた時、今迄なら国際会議と言っていたのを休暇と申告したのは新鮮だった。

そもそもミュンヘンに出かけたのは、筆者が半世紀近く前に一人で1年余り暮らしたカールスルーエにも、また足を延ばしてウィーンにも比較的行きやすい中継点という意味もあった。後期高齢者の年金生活者になってそう頻繁に海外に出かけることがないので、まだ普通に歩ける間にその昔訪れた街を再び訪れたいと思った次第である。実際、ミュンヘンに到着した翌日にはカールスルーエに移動し、城の背景の公園や懐かしいレストランに立寄ったりで、いい気分のまま、スイス国境に近いフライブルク（ここで2カ月間ドイツ語を習った）を再訪。その後、ICE（日本の新幹線に対応）に乗ってカールスルーエ経由でミュンヘンに戻る予定をしていたが、カールスルーエにあと5分程度のところで列車が突然停止。アナウンスによれば故障とのこと。列車は自力では動けなくなったようで、前か後ろかに別の電車を連結して前からの牽引もしくは推進などによって漸くたどり着いたのである。出発からして30分遅れで、更にそこからまた1時間半程度遅れとなったのだが、カールスルーエからミュンヘンに戻るために予約していた列車にはぎりぎり間に合ったので、これも不運と比較的軽く考えていた。

ところがミュンヘンで2泊して次はウィーンへと向かうべく朝から中央駅へ行ったところ、予定していたICEは運行キャンセル。1時間後の列車は1時間遅れ。10時台の列車もキャンセル。漸く11時台の列車が来たが、それまで乗れなかった人が殺到して座る余地もない。ザルツブルグまで立って移動して別の列車に乗り継ぐ手もあったが、折角の旅行で疲れ果てるのも嫌だし、ウィーン国立歌劇場で見たいと思ったオペラ「こうもり」も立ち席しかないというし、といったネガティブ要因しか出てこない状況であったことから、残念ながら電車代とホテル代をあきらめて、ミュンヘンに留まることにしたのである。

今回の旅行で同行した娘の話によれば、彼女の師匠のピアニストはパリからカールスルーエに列車で戻るのに12時間かかったという。しかも、ドイツの国営鉄道であるDB（Deutsche Bahn）におけるこのような大幅な遅れ、運行キャンセルはここ数年さほど珍しくないとか。巻き込まれた乗客も車掌に食ってかかる

わけでもなく、静かに読書やスマホで時間つぶし。すっかりあきらめ顔であった。筆者が一人で暮らした西ドイツ時代の国鉄Deutsche Bundesbahn（やはり略称はDB）は殆ど遅れることもなく、途中で止まることもなく、快適に長距離旅行が楽しめた。どうした、DB！と言いたい。おそらくメンテナンスなどの要員不足と技術低下が原因なのだろう。日本でもそうだが、基盤インフラの混乱は社会生活そのものに大きな混乱をもたらす。秒単位とはいわない。せめて以前のような状態になるように、何とか組織を立て直し、メンテナンスを含む管理運営体制の再構築を以前のように図ってほしいものである。足元が崩れてはさしもの筆者の第2の故郷とも思っているドイツもガタガタになろう。がんばれ、DB！

